

## ①原子力に関する研究開発・人材育成

(現在の状況)

- ・嶺南Eコースト計画  
敦賀エリアを中心に、国内外の大学・企業・研究機関から幅広い人材が集まる、新たな試験研究炉を活用した最先端の研究開発・人材育成の拠点的形成
- ・「もんじゅ」の取扱いに関する政府方針(2016年12月)  
「もんじゅ」を含む周辺地域を、我が国の高速炉研究開発の中核的拠点の1つとして位置付け、(中略)高速炉の実用化に向けた技術開発等を実施



京都大学研究炉 (KUR)

⇒原子力人材の育成や安全性を徹底的に高める研究開発の方向性の明確化

## ②エネルギーの多元化

(現在の状況)

- ・国内では、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、発電・輸送・産業など幅広い分野の脱炭素化に資する水素が成長産業として注目。今後、全国で水素サプライチェーンの構築に向けた動きが本格化
- ・嶺南地域は地理的に関西・中京に近く、国内有数の物流拠点である敦賀港を有し、拠点となるポテンシャルあり



敦賀港

⇒嶺南地域が地理的優位性を活かし、国の水素サプライチェーンにどのように貢献できるのか

## ③地域産業の複線化

(現在の状況)

- ・嶺南Eコースト計画  
市町ごとに特色あるスマートエリアの形成、自動走行トラクタなど新技術を活かした農業のスマート化、ICTによる増養殖の推進、産業団地の整備と企業誘致、さらには観光拠点の磨き上げ
- ・長期ビジョン  
北陸新幹線の整備による関西・中京との近接性や豊かな自然、歴史文化、食などを活かして、「住む」もよし、「遊びに来る」もよし、「ワーケーション」にもよしの「WAKASAリフレッシュエリア」の実現を目指す



WAKASAリフレッシュエリア  
(イメージ)

⇒WAKASAリフレッシュエリアにどのような価値を付加し人・企業・投資を呼び込むか、20～30年後の嶺南地域にどのような産業を根付かせるか(例：蓄電池産業、データセンター等)